看　　護

1　看護科における授業改善等の成果と課題

看護科においては、看護の見方・考え方※を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護を通じ、地域や社会の保健・医療・福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質・能力を育成することを目指した授業改善が進められている。

※看護科の見方・考え方
　健康に関する事象を当事者の考えや状況、疾病や障害とその治療等が生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切かつ効果的な看護と関連付けること

各学校では、地域医療を担う人材育成、看護師としての医療安全や倫理観を育む学びの充実に取り組んできた一方、地域や産業界との関わりの中で、看護に関する課題を主体的に見いだし、協働的に探究する学習の充実が求められている。

北海道教育委員会では、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会産業教育ワーキンググループにおいて示された産業教育全体に係る成果と課題を踏まえ、看護科における成果と課題を次のとおり整理した。

成果	課題
・地域の医療を支える看護人材の育成が図られた ・看護師としての医療安全及び倫理観の深い理解につながる学びの充実が図られた ・看護の場面の多様化に対応した人材育成が図られた ・生徒の自己肯定感・自己効力感を高める学びを推進することができた	・地域や産業界等と連携した取組が、継続的なものとなっておらず、単発的 ・生徒が探究課題に出会う機会が限られているため、職業人として多様な課題に対応できる探究的・実践的な力を育成するための学びの積み重ねが不十分 ・データサイエンス・AI に関連する教育及び看護 DX に関する学習内容を充実させる必要

＜授業改善等の成果と課題＞

2　学習指導及び学習評価の改善・充実

学習評価においては、資質・能力の３つの柱と評価の観点を対応させることで、学習指導を通じた資質・能力の育成状況を学習評価の結果として可視化し、生徒の学習や教師の指導の改善に繋げることが重要である。また、３つの柱に係る観点は、１回の授業ですべての学びが実現されるものではないため、単元の中で、学習を見通し振り返る場面やグループなどで対話する場面、生徒が考える場面等を設定し、学びの実現を図っていくことが必要である。

例えば、看護科における「思考・判断・表現」の評価においては、知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するため、次のような評価方法が考えられる。

＜「思考・判断・表現」の評価例＞

・ワークシートにおいて、指定した看護の場面において、気を付けたいことを自らの経験を基に考察させ、その内容を点検する。

・ペーパーテストにおいて、これまでの学びを踏まえて、科学的な根拠に基づいた判断及び個別性に応じた看護の実践を問う問題の解答状況を分析する。

・実習における手順書の記載内容を基に、根拠に基づいた判断ができているか確認する



3　指導と評価の計画例

(1) 基礎看護の計画例

ここでは、単元「コミュニケーション」の指導と評価の計画例を表し、指導上の留意点や評価における具体的な考え方を示している。

本単元においては、信頼関係を構築し、よりよい人間関係を保つことが看護の実践するための基盤となることの理解を基に、コミュニケーションについて基本的な知識と技術を習得し、活用できるようにすることをねらいとしている。

ア　単元の目標

(ア)	医療におけるコミュニケーションについて理解するとともに，関連する技術を身に付ける。
(イ)	医療におけるコミュニケーションについての課題を発見し，倫理観を踏まえて解決策を見いだして表現する。
(ウ)	医療におけるコミュニケーションについて自ら学び，対象に応じて実際の看護を適切かつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組む。

イ　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
医療におけるコミュニケーションについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	医療におけるコミュニケーションについて基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだして表現している。	医療におけるコミュニケーションについて自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切かつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（12 時間）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 ※「おおむね満足できる」状況（B）
1～2 【2時間】	習得	【コミュニケーションの意義と目的】 コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する。	知		日常の対人コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの違いを理解している。
3～4 【2時間】	習得	【コミュニケーションの構成要素と成立過程】 コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージを伝える方法を理解する。	知	○	コミュニケーションの構成要素と成立過程について理解している。 ミスコミュニケーションを避けるための方法について理解している。

5～6 【2時間】	習得	【関係構築のためのコミュニケーションの基本】 コミュニケーションの基本的な内容について理解する。	知	○	接近的行動の基本を理解している。
7～10 【4時間】	活用	【効果的なコミュニケーションの実際】 コミュニケーションの基本的な方法について実践する。	思	○	傾聴の技術とアサーティブ行動を実践することができる。
11～12 【2時間】	探究	【プロセスレコードの記入】 コミュニケーションの実際を通して自分の言動の傾向を理解する。	主	○	プロセスレコードを通して自分の言動を振り返り、改善点を見いだすことができる。

エ　学習指導案（11～12 時間目／12 時間中）

看護科においては、学校と地域の連携を一層強化し、地域の人々と協働的な学びを進められるよう授業改善等を行うことが重要であり、幅広い年代の地域住民などと協働し、課題の解決に取り組む学習活動が求められていることから、本単元においては、コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を実践的・体験的に活用する学習活動を取り入れる必要がある。

このため、地域住民との実際のコミュニケーションを通して、自己の言動の傾向を理解し、実践に生かせるようにするための授業例を示す。

学習内容		生徒の学習活動	指導上の留意事項	【観点】■評価方法
導入	本時の進め方 オリエンテーション	【グループ学習】 進め方の確認 ・グループ編成 生徒４名（うち司会1名） 地域住民１名 計５名のグループ 進め方 ・自己紹介 ・１対１の会話 会話は順に全員行う	・司会者グループ１名 ・最初に自己紹介を行う。 （アイスブレイク） ・生徒１名と地域住民１名で会話をする。トークテーマ「相手（地域住民）を知る」 ・会話に当たらない生徒は観察を行う。 ・会話の様子は VTR 撮影を行う。	
展開1	地域住民とのコミュニケーション	【グループ学習】 地域住民と生徒１名で２分間会話をする。 自分のコミュニケーションの様子をプロセスレコードに記入する。	・生徒１名が会話を終了したら、次の生徒が会話をする。生徒全員が会話終了するまで行う。 ・自分が会話をしないときには観察者となり、「良かったところ」「良くなかったところ」について入力する。 ・全員の会話が終了したらプロセスレコードを入力する。	【主】 ■グループワークシート Google スプレッドシートを使用して入力させる。 コミュニケーション場面の動画を生成 AI に入力し、チェックリストに基づく判定を行うよう、プロンプトで指示させる。
展開2	プロセスレコードに記入した内容から自分の言動の傾向を見いだす。	【個別学習】 生成 AI・メンバーの観察内容･プロセスレコードを総合して自分の言動の傾向を知る。	・自分のコミュニケーションの VTR とチェックリストを生成 AI でチェックする。 ・メンバーの観察内容と生成 AI の判定内容、生徒自身で記入したプロセスレコードを比較して、自身の言動の傾向をまとめる。	【思】 ■ﾌﾟﾛｾｽﾚｺｰﾄﾞ ■ワークシート
まとめ	まとめ	【グループ学習】 グループシェアリング	・自身の言動の傾向についてグループ内で一人ずつ発表する。 ・メンバーは発表から気付いたこと（出来ていた部分の確認や更なる改善点など）を発表する。	

オ　学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ)　「思考・判断・表現」の評価の工夫

看護科の生徒が医療者として望ましいコミュニケーション力を身に付けるためには、コミュニケーションにおける主観と客観の相違を把握させることが大切である。

そのため、本事例においてはグループワークシートとチェックリストを活用し、「グループメンバーによる評価」（例１）と「生成 AI を使用したチェックリストに基づいた評価」（例２）を使用することで客観視することができるようにした。また、プロセスレコード（例３）を使用することにより自身の気持ちについて深く掘り下げ、分析できるようにした。このことにより、医療者として望ましいコミュニケーションの在り方を検討するのに必要となる自身の傾向をつかめるように工夫した。

(ｲ)　生徒の「思考・判断・表現」の課題を達成させる ICT の活用

生徒自身の言動の傾向を把握させるために、自らの主観に加えて、客観的に考える視点を合わせて考えさせる必要がある。本事例においては、客観的な視点について、生徒同士による評価と生成 AI によるチェック内容、さらにプロセスレコードを用いて整理することで生徒が協働的に学ぶことができるように、次のとおり学習を進めている。

＜展開２における流れ＞

①　地域住民とのコミュニケーションの場面を見て、グループメンバーが良かった点と改善点をまとめる。

②　コミュニケーション場面を VTR 撮影し、コミュニケーションのチェックリストとともに生成 AI でチェックをさせる。

③　プロセスレコードを記載し、自身で一連のコミュニケーションについて振り返る。

④　①～③の内容を踏まえて、自身の言動の傾向を見いだす。

〔例１〕グループワークシートの例

	A	B	C
1	地域住民の方とのコミュニケーション　グループワークシート		
2		コミュニケーションを取った人	Dさん
3	生徒	コミュニケーションで良かった点	コミュニケーションで改善が必要な点
4	Aさん	相手の方の顔を見ながら、話しをすることができていた。 話しのたびにうなずき聴くことができていた。	時々、相手の人の話にかぶせて話ししてしまうことがあったので、最後まで聴いてから話すようにしたほうが良い。
5	Bさん	話しを聴くとき、うなずきと返事はよくできていた。 話しはじめはきちんと挨拶をできていた。途中椅子に座るよう勧められたときもきちんと断りの挨拶をすることができていた。	緊張していたと思うけど笑顔が少なかったと思うので、もう少し笑顔の方が話しやすい雰囲気になると思った。
6	Cさん	相手の話を聴いて「私はこう思った」ということが言えていて、相手の思いを聴くのと自分の感じたことを話しできていてすごいと思った。	返事はできていたけど、少し早口でせっかちな感じをうける場面があった。もう少し落ち着いて聴くことが必要かもしれない。 メモのときにメモすることに一生懸命になってしまって、話しが途切れる場面があったので、メモと会話のバランスも大切だと思った。

Google スプレッドシートを利用して作成する。
一人の実施者ごとに作成する。

〔例２〕生成 AI が作成したチェックリストに基づいた評価内容の例

これらの内容から自らの改善点について確認する。

チェック項目	判定	コメント
身だしなみを整えている	○	制服・髪型とも適切に整っている。
目的を明確にして訪室した	△	訪室は確認できるが、目的の説明は音声が不明瞭で判断困難。
あいさつをした	○	「失礼します」が確認できる。
対象者に自分の名前と役割を伝えた	△	音声が聞き取りにくく、確認できない。
プライバシーに配慮した環境を整えた	○	カーテンを閉め、環境を整えている。
対象者の話を最後まで聴いた	△	映像だけでは判断できない。
対象者に安心感を与える態度を心がけた	○	落ち着いた接し方である様子は確認できる。
共感的な姿勢で接した	△	会話内容が不明なため判断困難。

〔例３〕プロセスレコードの例

実習場所	実習期間	１年　組　番 氏名

プロセスレコードの記録目的

会話の途中で沈黙の時間があった。どうしたら沈黙なくスムーズな会話をすることができたか振り返りたい。

月日	時分	私が知覚したこと	私が考えたり感じたりしたこと	私が話したり行ったりしたこと	それに対する評価と考察
○/○	○:○	①○○さんが目の前に笑顔で着席している	②緊張する。うまく話せるか不安	③「はじめまして。私は○○と言います。今日はお話する機会をいただきありがとうございます」	④必要以上に緊張してしまい、笑顔で話せなかった。②で不安を感じていたので表情にも出てしまったのは良くなかった。
		⑤「こんにちは。私は○○です。こちらこそ、よろしくお願いします」	⑥笑顔でお話してくれて、優しそうな人で良かった。挨拶した後、何から話そうかな	⑦「今日はお天気が良いですね。」	⑧お天気の話からしたのは良かったが、その次の内容が思いつかなかったため、沈黙に繋がってしまった。

(ｳ)　「思考・判断・表現」の評価の具体例

「思考・判断・表現」を評価するため、次のワークシートを使用する。

振り返りワークシート

1．地域の方とのコミュニケーションで、自分の言動傾向はどのようなものだったか、振り返った内容を記載してください。

2．自分の言動傾向を知り、今後の課題としてどのようなことがありますか。

3．地域の方とのコミュニケーションで、自分の言動傾向はどのようなものだったか、振り返った内容を記載してください。

4．自分の言動傾向を知り、今後の課題としてどのようなことがありますか。



＜ワークシート（左）を活用した振り返りの様子＞

○十分満足できる（A）の評価例

対象者を第一に考えて振り返りをしている。さらに、既習の知識を踏まえた課題をまとめている。

3．地域の方とのコミュニケーションで、自分の言動傾向はどのようなものだったか、振り返った内容を記載してください。

・緊張すると早口になり、対象者のペースを優先できなかった。
・沈黙になってしまい、話が途切れないように、一方的に話してしまうことがあった。
・焦りや緊張が全て表情や態度に出てしまい、対象者に気を遣わせてしまった。
・うなずきや相づちを入れながら傾聴することはできた。
・対象者の理解を深められる質問ができなかった。

4．自分の言動傾向を知り、今後の課題としてどのようなことがありますか。

・緊張せずに会話できるように、対象者の情報（年齢・性別・職業など）を得て、会話の内容を事前に考えておく。
・自分の感情が言動に表れてしまわないように、落ち着いて対象者のペースに合わせて会話を進める。
・対象者の反応を見ながら、沈黙も大切にしてゆっくりコミュニケーションを取る。
・対象者の聞こえの様子を考慮して、声の大きさやトーンを考える。
・対象者の理解度を考えて、会話の内容や言葉を選ぶ。
・話を深める質問を十分できるように、オープンクエスチョンを活用し、対象者の理解を深められるようにする。

○おおむね満足できる（B）の評価例

対象者について考えた振り返りをしている。

3．地域の方とのコミュニケーションで、自分の言動傾向はどのようなものだったか、振り返った内容を記載してください。

・緊張すると早口になり、自分のペースで会話することが多かった。
・話が途切れないように一方的に話してしまうことがあった。
・焦りや緊張が全て表情や態度に出てしまった。
・対象者の話を最後まで聴くことはできた。
・対象者への質問が少なかった。

4．自分の言動傾向を知り、今後の課題としてどのようなことがありますか。

・緊張せずに会話できるように、ある程度会話の内容を事前に考えておく。
・自分の感情が言動に表れてしまわないように、落ち着いて会話を進める。
・声の大きさやトーンを考える。
・対象者の理解を深められるように質問する。

○努力を要する（C）の評価例

対象者について触れられておらず、自分中心の振り返りになっている。

3．地域の方とのコミュニケーションで、自分の言動傾向はどのようなものだったか、振り返った内容を記載してください。

・緊張すると早口になってしまった。
・一方的に話してしまった。
・焦りや緊張が全て表情や態度に出てしまった。

4．自分の言動傾向を知り、今後の課題としてどのようなことがありますか。

・緊張せずに会話する。
・落ち着いて会話する。
・楽しく会話する。

4　主体的・対話的で深い学びの実現に向けたチェックリスト

下図は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点として、『学習者』及び『授業者』からの視点をまとめたものであり、主体的・対話的で深い学びを実現するために『授業者』の『学習者』に対する働きかけの在り方を整理したものである。（太字、下線付きは本手引の内容に関わるもの）

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	□看護の学習に興味や関心をもつ □学習の目的や到達目標を理解して、学習に取り組む □自分の考えや疑問をもちながら学習を進める □**学んだことを振り返り、次の課題を明確にする** □授業で学んだ内容を実習や日常生活と関連付けて考える	□授業のねらいや到達目標を明確に提示する □生徒が自ら考える課題や問いを設定する □生徒が主体的に情報収集・判断できる活動を取り入れる □**学んだことを振り返り、次の課題を明確にさせる** □**生徒が授業で学んだ内容を実習や日常生活と関連付けて振り返る時間を確保する**
対話的な学び	□グループ活動や意見交換に積極的に参加する □**相手の意見を傾聴し、多様な考え方を理解する** □自分の考えに根拠をもって伝える □他者からの意見や助言を受け、ICT 等の活動を通じ、自分の考えを深める	□グループ活動や演習で積極的に意見交換させる □**ペア・グループワークなど対話の機会を設け、相手の意見を尊重しながら話を聴かせる** □生徒が根拠を示して説明・議論できるよう支援する □**他者との対話を通して、自分の考えを見直させる** □多様な意見を引き出し、互いに尊重できる学習環境を整える □教員からの一方向の説明だけでなく、双方向のやり取りを促す □**ICT や生成 AI 等を活用して、多様な意見に触れさせる**
深い学び	□**看護の知識・技術・態度を関連付けて考える** □患者の立場や価値観を踏まえて考察する □学んだ知識を具体的な看護場面に活用できる □学習内容について「なぜ」「どのように」を考えながら理解を深める	□**看護の知識・技術・態度を関連付けて理解させる** □患者・家族の価値観や倫理的視点を考える場面を取り入れる □**学習内容を実習や臨床で活用できるよう支援する** □「なぜその看護が必要か」を根拠に基づいて考えられる問いを設定する

※主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（令和２年６月文部科学省 国立教育政策研究所）を基に一部加筆